



# 廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成29年  
7月21日  
第2号

1学期が終わりました。皆さんにとってどのような1学期だったでしょうか。

夏季休業中は、子どもたちと少し離れ、1学期の取組はどうだったか、2学期からどのようにしていくか、じっくり考えることができます。よい2学期が迎えられよう、じっくりと研修するとともに、休めるときはしっかりと休み、英気を養っていただきたいと思います。



## 地域ぐるみで子どもたちを育てます ～学校の応援団 学校支援地域本部事業～

学校支援地域本部事業は、学校のニーズに応じて、学校の教育活動を地域の皆さんが支援する、いわば「**地域につくられた学校の応援団**」活動です。平成21年度から始まった取組で、現在小学校17校中15校、中学校は5校で本部が設置されています。今年度中にはすべての小学校に設置する予定です。

昨年度末の学校支援地域本部事業に関するアンケートでは、支援者の**94%**がやりがいを感じており、教員の**96%**が効果を感じています。写真の他にも、給食の配膳や掃除、始業前の支援など活動の幅が広がっています。



本の読み聞かせ（阿品台中）



家庭科の調理実習（大野西小）



入門期の算数での支援（阿品台東小）

下校の見守り（友和小）

学校支援地域本部事業の活用により、さらに質の高い教育が提供されることや事業を通じて子どもたち、教職員、地域の方たちのつながりが深まり、地域の教育力が高まることを望んでいます。

## 子どもたちの心に寄り添った支援をめざします ～子ども、先生方を支える職員の仕事紹介～

現在、小学校に57名、中学校に21名の特別支援教育支援員（以下、支援員）を配置しています。今回は、通常の学級に在籍している児童を支援している支援員さんにお話をうかがいました。



宮内小学校で支援員をしている**松尾ちはる**さんは、支援員3年目です。子育てをしていて、子どもに携わりたいと思うようになったことが支援員を始めたきっかけです。

支援をする上で大切にしていることは、上から目線の声かけでなく、肯定的な声かけをすることです。ささいなことでも子どもを褒めること、ほっとできる存在であることを心がけています。担任や特別支援教育コーディネーターと相談しながら、子どもたちにとってどのような支援がよいのか、考えています。

日々いろいろなことがあります。子どもたちの成長が見られることがとてもうれしく、そしてやりがいになっています。

松尾さんは、登校時、なかなか教室に入れないうちにも寄り添います。授業中は、子どもたちの目線の高さに座り、困っている子どもたちをそっとフォローします。外国語活動の授業では、みんなが楽しく歌って踊っているなか、何もしようとしない子に声をかけて誘います。

優しく子ども見守る様子が印象的でした。



他にも、読書活動推進員、生徒指導アシスタント（小学校）、心の教室相談員（中学校）、ICT支援員、教務事務支援員など、多くの非常勤職員が子どもたちや先生方を支えています。

## 「ふるさと学習」はじめました

7月1日（土）、大野中学校で「ふるさと学習」の取組の1つとして、吉田博詞さん（平成7年度大野中学校卒業生）による「大野の魅力 再認識から誇りへ」という講演がありました。

吉田さんは、東京で地域のブランド化をサポートする会社を起業し、日本各地や世界各国を飛び回り、地域の魅力を発掘し、地域活性のために、専門的な助言などを行っています。その地域のブランド化のプロが、大野に秘められた魅力を熱く語ることは、生徒にとってこれ以上ない説得力のある話となりました。

講演の中では、20年以上前の大野中の様子が画像で紹介されたり、その中に、今の大野中に勤務されている先生が写っていたりしたことから、生徒は吉田さんとのつながりを感じながら、キラキラした目で吉田さんの話に聞き入っていました。



## 「子ども司書」目指してがんばります！！

～平成29年度「子ども司書」養成講座～



今年度も「子ども司書」養成講座がスタートしました。17名の児童が、「子ども司書」を目指して研修を行います。

6月24日（土）、第1回目の全体研修を行いました。

「日本十進分類法」について学んだり、おすすめの本を紹介し合うコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」に挑戦したりして、充実した研修になりました。

これから、「子ども司書」を目指して、図書館や学校の図書室などでも活動を行いながら、本の楽しさや面白さを伝えていってくださることを期待しています。

### 〔児童の感想から〕

- ・日本十進分類法を覚えて友達に本を紹介したい。
- ・ビブリオバトルをして、読んでみたい本がたくさん見つかった。



ときどきわくわくのビブリオバトル

## 平成30年度全県展開へ向けて ～第1回廿日市市「学びの変革」推進協議会～



加藤葉子教諭による研究授業

6月29日（木）、今年度1回目の推進協議会（兼プログレス研修（研究主任研修））を佐方小学校で行いました。

まず第4学年の算数の授業を参観しました。友だちの考えをよく聞き、自分の考えと比べたり相手を意識して話したりする子どもの姿が見られました。

次は、四季が丘小松田綾子教諭、大野中木村央子教諭の両パイロット教員による講義「How to 校内研修」でした。①なぜ「学びの変革」が求められるのか②資質・能力の設定について③単元開発について、の3点について、研究主任に分かりやすく説明していただきました。

次回は、8月3日（木）に行います。

### 〔参加者の感想から〕

- ・主体的に学ぶためのベースとなる児童の人間関係づくりや聞くこと、話型を使った発表の仕方など、大変参考になった。
- ・研究主任として、指導案を作成する前の単元構想の段階で授業者と話し合うことが大切だと思った。
- ・自校では、各教科で課題発見・解決学習をいつ、どの単元で行うか、決めていきたい。




## 生徒指導 スキルアップ! ②

### 「かかわること①」

今回は、小さな乱れの段階から組織的に丁寧に指導していく大切さについて、「割れ窓理論」を例にあげお伝えしました。今回は、先生と子供との「かかわり」についてお話をさせていただきます。

ノーベル平和賞受賞者エリ・ヴィーゼルは、「愛の反対は憎しみではない。無関心である。」という言葉を残しています。では、私たちが心がけるべきことは…

**何はなくとも、まずかかわる!!**

 **スキルアップ ポイント!**

とは言っても、「全く話をしたことがない子や、おとなしい子には何を話せばいいだろうか。」と悩むこともあるでしょう。そういうときこそ、「あいさつ」なのです。あいさつは、相手の存在を認めるかかわりの第一歩。「おはよう」「〇〇さん、おはよう。」「〇〇さん、おはよう。昨日は〇〇だったね。」という具合に、あいさつから少しずつ話題を広げていけばいいのです。まさに、「**あいさつプラス1**」です。

また、こちらからあいさつしても、あいさつが返ってこない子もいます。それでも、あいさつし続けましょう。その子からかかわりたくなったときに、そのあいさつがかかわるきっかけとなります。



## 廿進!!『学びの変革』①

「廿進」とは、「廿日市が進める」、「それを発信する」という意味があります。今年1年間、連載しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、初回の今回は、来年度「学びの変革」全県展開に向けて、全ての学校や、全ての先生が今年度中に何をしなくてはならないのかをお伝えします。今年度中にしなければいけないのは、「**課題発見・解決学習**」の単元を、次年度の年間指導計画へ位置付けることです。

そのためには、次のようなことが大切になります。

- ・ 学校教育目標を踏まえ、自校の児童生徒に育成を目指す資質・能力を設定すること
- ・ 自校が設定した育成を目指す資質・能力の一つ一つについて、発達段階に応じた目指す児童生徒の具体的な姿を明確にすること
- ・ 自校が設定した育成を目指す資質・能力を「どの教科等で」「いつ」育成すべきか構想すること

詳しくは、各校研究主任から説明があります。

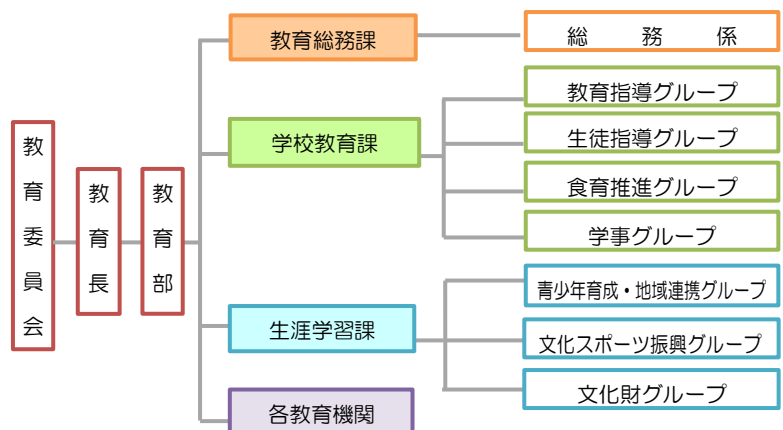
## 教育委員会の仕事 ①

このコーナーでは、教育委員会について紹介していきます。

教育委員会は、県及び市に置かれる合議制の執行機関で、生涯学習、教育、文化、スポーツ等の幅広い施策を展開する機関です。

廿日市市教育委員会は教育長及び1名の教育長職務代理人、4名の教育委員で構成され、教育部（事務局）は3つの課に分かれています。

次回からは、それぞれの課について紹介します。



### 夏季休業中の市教委主催研修一覧

- 8月3日(木) 教務主任研修兼「学びの変革」推進協議会(教務主任:終日、研究主任:PM) 大野図書館
- 8月4日(金) 学級経営研修 AM 市役所7F 会議室  
総合的な学習の時間推進研修 PM 市役所7F 会議室
- 8月9日(水) 校長研修 AM 市役所7階 会議室
- 8月10日(木) 特別支援教育推進研修 PM 交流プラザ1F ホール
- 8月17日(木) 教職員夏季研修 PM さくらびあ小ホール
- 8月22日(火) 読書活動推進員研修 AM~ 市役所7F 会議室
- 8月24日(木) 支援員等研修 PM 交流プラザ1F ホール
- 8月28日(月) 教頭研修 PM 交流プラザ1F ホール

